

# 土木学会四国支部「土木紀行」 No.2(愛媛県)

## ～ ・ ～ ・ ～ 長浜大橋 ～ ・ ～ ・ ～

長浜大橋は、愛媛県の大洲市（旧・長浜町）の肱川河口にある可動橋で、全対が赤く塗られていることから、地元では赤橋と呼ばれ親しまれおり、現役で動く我が国最古の道路可動橋である。



写真 - 1 長浜大橋概観

橋の構造形式はバスキュール式鉄鋼開閉橋で、橋長 226m、幅員 5.5m、開閉部分の長さ 18m、開閉部分の重量 82t であり、当時の金額にして 29 万円で昭和 8 年 10 月に着工、昭和 10 年 8 月に竣工した。橋のたもとの橋名には「長濱大橋」と旧字体でつくられた時の表示がある（写真 - 2）。開閉部分にはカウンターウエイト（写真 - 3）がとりつけられており開閉時におもりの役割を果たし、開閉の作用を軽くする構造になっている。



写真 - 2 橋名



写真 - 3 開閉部分 カウンターウエイト

当時、東岸と西岸を結ぶための渡し舟はあったが、交通事情を改善するため、当時の長浜町長であった西村氏が橋の建設を提案した。肱川は水深が深く、流れも比較的急であったため、舟運を阻害しない可動橋の建設は当時としては画期的なアイデアであった。

その後、昭和 52 年に新長浜大橋が建設され、その自動車交通に関する役割のほとんどを譲ったが地元住民の強い要望により撤去されずそのまま残すこととなり、今でも地元住民の生活道路として地元住民に利用され、まちの観光にも一役買っている。平成 10 年には登録文化財にも指定されている。

長浜大橋のある肱川河口は、その独特の地形から発生する肱川あらしで有名です。秋から冬にかけて大洲盆地で発生した霧が一気に肱川を下る季節の風物詩で長浜大橋の赤とのコントラストが見事である。



写真 - 4 肱川あらし

7月から9月にかけては長浜大橋イルミネーションが行なわれ訪れた人々の目を楽しませてくれる。

興味を持った方は今なお地元住民に愛されている長浜大橋を訪れてもらいたい。



写真 - 5 長浜大橋イルミネーション

参考文献)

長浜大橋パンフレット：旧・長浜町

大洲市ホームページ：<http://www.city.ozu.ehime.jp/>